

【短報】房総半島におけるツツイキバナガミズギワゴミムシの発見

ツツイキバナガミズギワゴミムシ *Bembidion (Desarmatocillemus) tsutsuii* (Uéno, 1955) は、トカラ列島中之島産の標本をもとに記載された潮間帯性のミズギワゴミムシである。タイプ産地のほか奄美大島 (森田ら, 1996), 屋久島 (Nakane, 1956), 九州の長崎県 (松尾ら, 2008), 本州太平洋側の愛知県 (佐藤, 1965), 静岡県 (多比良ら, 2000) の河口域あるいは海岸部から生息情報がある。このうち愛知県から最初に見つかった知多半島新舞子の産地では再発見されず、護岸工事が行われたことから絶滅したと考えられている (岩崎ら, 1990)。その後、愛知県下では森田ら (1996) により豊橋市の豊川河口域で新たな産地が発見されたが、自然海岸の減少などにより、全国的に本種の生息が

脅威に晒されている状況に変わりはない。こうした現況をふまえ、2007年10月5日に更新された環境省の最新版レッドリストには、準絶滅危惧種としての掲載がある。

筆者は、これまで生息が確認されていた伊豆半島より東の千葉県房総半島で本種を採集しているため報告する。

1♂, 1♀, 千葉県南房総市白浜町白浜, 19. III. 2012; 7♂♂, 5♀♀, 同地, 7-8. IV. 2012, 筆者および森田誠司氏保管。

採集地点は岩礁周辺の潮間帯の砂礫地で、付近に大河川の流入はなく、満潮時には30 cm ~ 1 m ほど水没するような場所だった。この時期、干潮時に日中、夜間を問わずに活動していた。ただし、

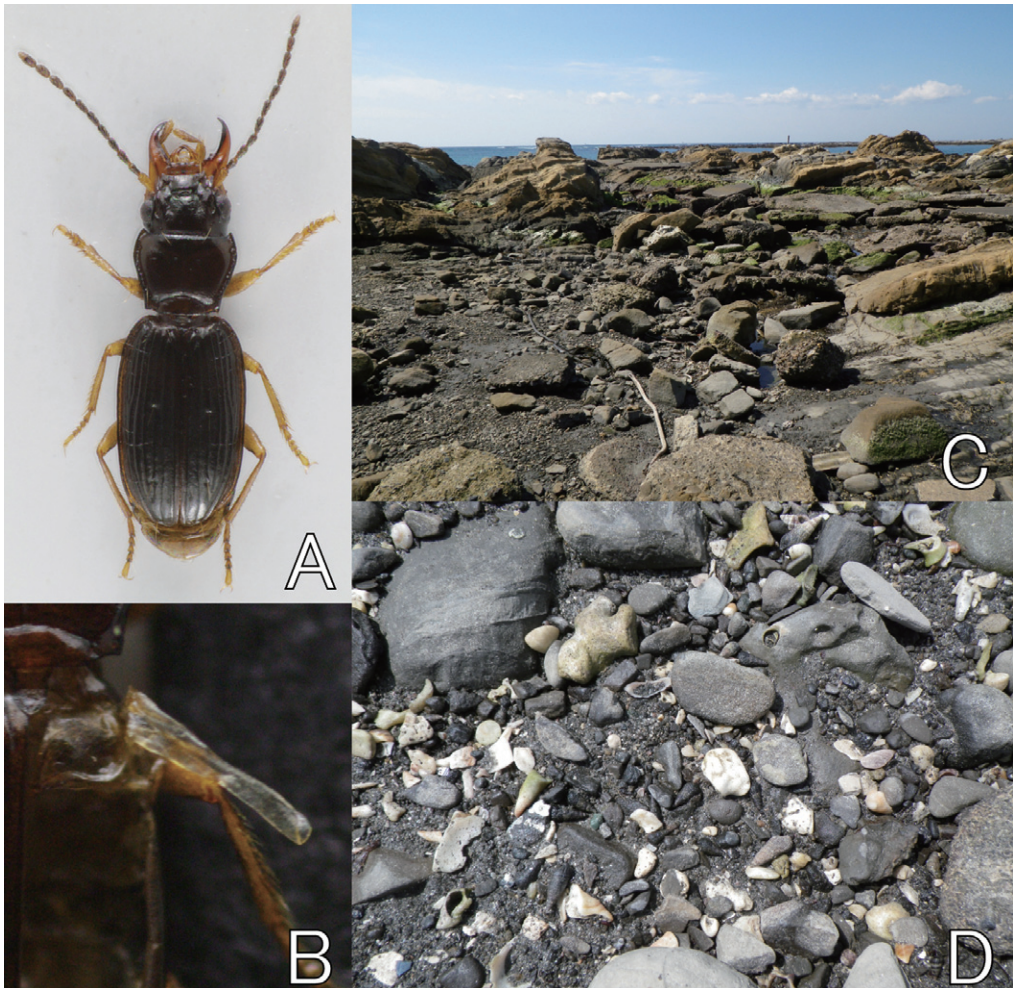


図1. ツツイキバナガミズギワゴミムシとその生息環境。A:♂ (房総半島産) ; B: 右後翅, 上翅を外して示す ; C, D: 生息環境。

地表を頻繁に露出的に徘徊しているのは干潮時の一定の時間帯に限られ、その後は石の下で見つかる個体が多くなり、交尾をしているペアも観察された。

2地点での生息を確認したが、1地点の確認範囲はかなり狭く、個体密度もごく低かった。もう1地点はある程度の個体数がみられたが、やはり確認範囲は広くはなく、工事等が行われれば、容易に生息環境が消滅するような状況と見なされた。

本種は後翅が細長い舌状で、上翅長の半分にも満たないほどに縮小しており、飛ぶことはできない。このため、移動能力は低いことが予想され、連続的ではない生息地の消失が個体群の存続におよぼす影響は小さくないと考えられる。

ところで、森田ら(1996)は豊橋市における本種の生息状況から、生息条件の一つと考えられる環境の底質にかかわるキーワードとして、「白い砂」を挙げた。筆者が観察した南房総のマイクロな生息環境では、底質に貝殻の破片は混じるものの石英をあまり含まないためか、砂の白さは特に目立ってはいなかった。今回確認された個体群には他地域のものとは比べて軽微ながら黒化の傾向が認められたが、榎戸(1991)や芦田(1998)がカワラハンミョウ *Chaetodera laetescripta circumpectula* (Horn, 1938) で示唆したように、本種の場合も体色は底質の色とある程度同調している可能性がある。

同所的にはナギサハネカクシの一種 *Bryothinus* sp. や巻貝のホソウミナナなどがみられたが、これらの生物が確認されても、本種が見つからない環境も少なくはなかった。Uéno (1955) は、トカラ列島中之島において本種と同所的にみられる無脊椎動物として、甲殻類のカニダマシ類、棘皮動物のムラサキクルマナマコやウデフリクモヒトデを挙げたが、南房総ではこれらやその近縁種は見いだしていない。

一方で、Sasakawa (2007) は、地理的にはタイブ産地に相対的に近い屋久島産の個体群を上翅の色彩と交尾器形態の差異によって別種 *Bembidion* (*Desarmatocillenus*) *yakushimanum* として分離した。本種または本種群は、南房総のみならず他地域の個体群も含めて分類上の再検討をする余地があると思われる。今回、検鏡して原記載と照らした結果、現時点では南房総産の個体群はツツイキバナガミズギワゴミムシと同定するのがもっとも妥当と考えられた。前述したように体色は黒みが強い傾向にあるが、個体によっては豊橋市産、さらには屋久島産とも大差はなく、♂交尾器外形も原記載の図、豊橋産との比較でも顕著な違いは認められない。

なお、千葉県からは森田(1982)をはじめ、最近では谷野(2007)により、このグループのゴミムシ類はキバナガミズギワゴミムシ *Bembidion* (*Dersarmatocillenus*) *yokohamae* (Bates, 1883), オオキバナガミズギワゴミムシ *B. (D.) sumaoi* Morita, 1981, キバネキバナガミズギワゴミムシ *B. (D.) aestuarii* (Uéno and Habu, 1954) の3種がこれまで報告されている。本種が千葉県のファウナに加わることで、本土では千葉県沿岸部がこのグループの多様性をもっとも高い地域のひとつとなった。

末筆ながら、文献の問い合わせに応じてくださった森田誠司氏(東京都)、多比良嘉晃氏(静岡市)に心よりお礼申し上げる。

引用文献

- 芦田 久, 1998. カワラハンミョウの分布と変異. 月刊むし, (333): 5-9.
- 榎戸良裕, 1991. ハンミョウ類, 観察と採集のポイント. 昆虫と自然, 26(10): 16-21.
- 岩崎 博・蟹江 昇, 1990. 愛知県のオサムシ類. 309-338pp. 愛知県の昆虫(上), 愛知県自然保護課.
- 環境省, 2007. 報道発表資料 レッドリストの修正について. 添付資料 資料2 修正版レッドリスト昆虫類(平成19年10月5日) <http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=8886>
- 松尾照男・深川元太郎, 2008. ツツイキバナガミズギワゴミムシ長崎県の記録. 甲虫ニュース, (163): 8.
- 森田誠司, 1982. 千葉県小櫃川のキバナガミズギワゴミムシ類. 甲虫ニュース, (55): 6.
- 森田誠司・白井勝巳・蟹江 昇・長谷川道明, 1996. 愛知県におけるキバナガミズギワゴミムシ類の採集記録. 豊橋市自然史博物館研報, (6): 27-30.
- Nakane, T., 1956. On a new species of *Armatocillenus* and its allies in Japan (Harpalidae: Trechinae). *Insecta Matsumurana*, (19): 101-104.
- Sasakawa, K., 2007. Taxonomic studies on the *Bembidion* ('*Cillenus*') complex: A revision of the subgeneric taxonomy and description of a new species from Japan. *Zootaxa*, (1575): 35-45.
- 佐藤正孝, 1965. 海に住む昆虫. 井波一雄編, 名古屋の自然, 166 pp., 六月社, 大阪.
- 多比良嘉晃・松本雅道, 2000. 静岡県における海岸性甲虫相. 環境システム研究, (7): 39-71.
- Uéno, S. -I. 1955. Marine insects of the Tokara Islands. VII. New species and new subspecies of the subfamily Trechinae (Coleoptera, Harpalidae). *Publications of the Seto Marine Biological Laboratory*, (4): 403-413.
- 谷野泰義, 2007. 千葉県で採集した海棲のゴミムシ. 房総の昆虫, (39): 59-62.

(亀澤 洋 350-0825 川越市月吉町 32-17)